

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL <http://jbwf.jp>

沙羅の樹

Saranoki

No.20

2024 年秋号

10 月 1 日発行



8 月 4 日に宗教サミットがありました。世界平和を祈願して「平和の鐘」が比叡山延暦寺から日本国内そして全世界に鳴り響きました。現在世界で子どもたちを含めた沢山の犠牲者がでている悲惨な戦争が、まだ終わりの見えない現実、あらためて世界の平和を願わざるを得ません。

東伏見具子会長が 2013 年の会長就任時に「子どもたちに美しい地球を残す」

あらためて考える
私たちに
できることは
何だろう

子供たちの
未来のために

令和 6 年 1 月 1 日、石川県能登半島で最大震度 7 の大地震が発生しました。その後復興も思うようにはかどっていないと聞いておりますが、今子ども達はどうしているのだろうか、心を痛めております。

被災した方々や子ども達の心にどうしたら寄り添う事が出来るかと、今年度中に被災地に実際に訪問し、今後の支援活動の在り方を考えてまいります。

と提唱、その後「子供たちの未来のために」をスローガンに、子どもの教育・生活の環境と地球の自然環境について問題を提起し、活動をしてまいりました。

機関誌「全佛婦」を通して、有識者の方々に子どもの教育環境について、貴重なお話を伺いましたが、子どもたちの貧困問題が大変に逼迫していることを知りまして。そこで仏教界で現実にも子ども達のために「こども食堂」などを運営されている真言宗豊山派金剛院、真言宗智山派南蔵院、日蓮宗神戸妙昌寺、おてらおやつクラブ、そして直近では静岡県仏教婦人連盟のフードドライブ、真宗大谷派真楽寺の活動を「全佛婦」に掲載し、会員夫々の立場で応援協力しております。

また今世界中が温暖化や自然破壊などによる災害に

現実且つ実際に、「子供たちの未来のために」に行動を起こしていかなければならない

見舞われています。私たちも文化講座や機関誌「全佛婦」で学識者のご講義を受けて現状を危惧し、花の種をお配りする際のリーフレットなどで、自然の大切さを訴えてきました。今後は学者また企業などが取り組んでいる事例なども調査し、これから私たちも現実且つ実際に、「子供たちの未来のために」に行動を起こしていかなければならないとあらためて意を決している次第です。それと共に私たちは女性で構成する会ですから、優しさやきめ細やかな心配りをして、相手の気持ちを大切に、子ども達だけではなく母親をもサポートしていくことが大切ではないかと考えております。どうぞ皆様方のご指導ご協力をお願い申し上げます。

私たちの活動報告

各事業にご賛助及び
ご協力をいただき、
ありがとうございます。

9 月 15 日現在（順不同・敬称略）

▼指定寄付金にご協力の方

祐天寺

▼賛助金にご協力の方々

浄土宗 真言宗智山派 妙法院門跡

大本山成田山新勝寺

大本山高尾山薬王院 総本山四天王寺

総本山西教寺 西新井大師總持寺

金剛院 真如苑

（一社）日本仏教鑽仰会 大和証券（株）

▼ご芳志を頂きました方

神田寺

▼社会福祉基金にご協力の方々

木田正子 林恵智子 花岡眞理子

本多端子 正本光生

▼写経運動にご協力の方々

念法眞教 末廣久美 村上和之

日吉観 林恵智子 東伏見具子

本多端子 海老名初江

▼花の種運動にご協力の方々

光明院 窪川香薫

▼あおぞら奨学基金にご協力の方々

花岡眞理子 本多端子

▼災害支援にご協力の方々

富田記代

▼「全佛婦」誌代にご協力の方

匿名

〔発行人〕花岡眞理子

〔編集人〕日比野郁皓 山口偉理子

末廣 綾

〔デザイン〕合同会社まに

お知らせ（今後の予定）

✓ 第 71 回
全日本仏教婦人連盟大会

日時：10 月 30 日（水）
会場：東京プリンスホテル
「マグノリアホール」

✓ 成道会の集い

日時：12 月 4 日（水）
会場：有楽町朝日ホール

✓ 新年修正会

日時：1 月 20 日（月）
会場：明治記念館「芙蓉の間」

✓ 第 132 回文化講座

2 月に写経会を
予定しております

7 月

10 日 「全佛婦」139 号発行

25 日 第 37 回全国仏教保育埼玉大会（パレスホテル大宮）

31 日 （公財）全日本仏教会第 1 回国際交流審議会

（zoom ミーティング）

8 月

1 日 （公財）全日本仏教会総務財政審議会（明照会館）

2 日 （公財）全日本仏教会実行委員会（zoom ミーティング）

4 日 比叡山宗教サミット 37 周年「世界平和祈りの集い」

9 日 第 3 回運営委員会（zoom 会議）

21 日 編集会議（上野）

9 月

6 日 編集会議（樫寺）

11 日 （公財）全日本仏教会支援検討会議（zoom ミーティング）

26 日 第 48 回正力松太郎表彰式（東京グランドホテル）

27 日 第 4 回運営委員会（谷中・天王寺）

第 131 回文化講座（谷中・天王寺）

Activity Report

あおぞら
奨学基金

東北の 5 名の高校生と山梨にウクライナから避難している高校生 1 名の支援。（一か月 1 万円の給付型奨学金）

能登支援

能登支援として、今年度より石川県で被災された高校生 3 名に皆様方よりご協力いただいた支援金を全青協さまを通じて支援。

花の種運動

「花の種」を毎年お送り頂きましてありがとうございます。今年は台風 10 号の影響で雨が長く続き、アサガオの根が半分ダメになりました。アサガオ咲か

ないのではと思いましたが、ここ 2～3 日の秋の兆しのような気候に、咲き始め園児たちもとても喜んでいるところです。子ども達からのメッセージ「いつもお花の種をありがとうございます。一つの小さな種からお花がきれいに咲きとてもうれしです」「暑いときお水をあげたりして、早く咲きますように」と拝んでいる子がいたり、毎日毎日様子を見ている子もいました。お花は子ども達だけではなく、忙しい母親の心も癒してくれています。

梅ヶ原幼稚園



第130回文化講座

奈良仏教 セミナー

6月13日(木)

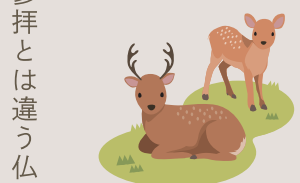
中宮寺

聖徳太子が母穴穂部間人皇后（あなほべのはしひとこうごう）のために建立した我国最古の尼寺という中宮寺。

仏像彫刻に関わる私にとつては国宝菩薩半跏像（伝如意輪観音）を側で拝見することが出来る期待で参拝を楽しみにしていたお寺でした。菩薩半跏像は飛鳥時代の最高傑作の仏像のひとつであると言われこの像のお顔の優しさはアルカイックスマイル（古典的微笑）と言われ大変高く評価されています。大広間にはご門跡様がお待ちになられご自身が指示を出されお抹茶を頂きました。



6月13日(木)に第130回文化講座奈良仏教セミナーが執り行われました。京都八条口に集合、貸し切りバスにて参加者32名で、飛鳥文化を辿る聖徳太子ゆかりの斑鳩の里へ。全日仏婦とご縁の深い尼寺中宮寺門跡と法隆寺を参拝いたしました。関西の迎賓館とも云われる奈良ホテルにてフランス料理の昼食後、元興寺にて参拝、そして宝物館を見学いたしました。ならまち散策して京都駅にて解散の行程でした。



ご門跡様
の後ろには等身大の菩薩半跏像レプリカがあり実物と見間違えるほど立派で神々しさがありました。

ご門跡様は体調がすぐれない中ご挨拶も頂き大変恐縮であり光栄な時間でした。本堂で菩薩半跏像の実物を拝見した際やはり本物の持つオーラというものは凄いものでした。普通では入ることが出来ない仏像の周りを一周させて頂いたことは貴重な経験でした。

菩薩半跏像は黒光りし金屬製と思ひ込んでいましたが間近で拝見すると木の節を見つけ木造である事がわかり大変驚きました。また昨年、衣替えで新たに天寿国文様刺繍被衣をまとった聖徳太子二歳像も併せて拝見いたしました。

法隆寺

埼玉工業大学特任教授・文学博士・浄土宗勸学

宮澤正順

毎年念頭に当たり法隆寺様からお年賀状が届く。ど



のようなご縁からなのか全く記憶を辿れない。随分と前からのことと推察される、と申し上げるのは、拙僧は今有名な大谷君同様の七月五日生まれで九十三歳と数か月の年齢になるからである。今般令和六年六月の第百三〇回文化講座に参加して管長古谷正覚猊下・大野正法執事長様からご丁寧な講話も頂いた次第で、長生きをすることの有り難さを痛感した。境内をご案内くださった増田定秀様からは、五重塔の頂上の水煙の底部には魔除けのためか、草刈鎌が置かれている、ともお聞きした。

この原稿を書くに当たって、書庫から法隆寺に関する文献をドッサリ手元に取り出した。その中には藤原猶雪

の「聖徳太子伝」上下や「聖徳太子集」（日本思想大系2）

「一九九四年国宝法隆寺展」（上野東京国立博物館）「聖徳太子伝の世界」（2008年大谷大学博物館）「千四百年御聖忌記念特別展・聖徳太子日出処の天子」（日本経済新聞社）家長三郎・古田武彦

「聖徳太子論争」（新泉社）谷沢永一「聖徳太子はいなかった」（新潮社）「聖徳太子の世紀77の謎」（歴史読本・昭和52、5月号）などがある。

聖徳太子といえば、かの有名な十七条憲法がまず想起さ

れる。ここにいる憲法の意味は、国民を君と臣と民に三分して、その真ん中の臣すなわち役人に対する訓戒である、とは辞書の解説である。その憲法の冒頭に有名な、

一に曰く、和を以って貴しと為し、さからう無きを宗と為よ
がある。この「和」を尊ばれる発言は、物部・曾我の争いを通じての戦争の悲惨さと思われた上での聖徳太子の切実な発言といえよう。九月七日に上野の東京国立博物館で神護寺展を見終わり外に出ると、法隆寺宝物館の標識が目についたので直ぐ入館して驚いた。第一室から第五室までに飛鳥時代の金銅の数々の諸仏諸菩薩が祀られていた。お像に参詣できたのも、み仏のお導きとしか考えられない。

み仏様の平和に満ち溢れた御尊顔を拝しながら「和」の心の大切さを思い知らされる。然しながら今日、この地上で戦争が続いている。一日

元興寺

奈良仏教セミナーで、中宮寺御門跡、法隆寺から三カ寺目の元興寺に拝観させていただきました。ご住職様・元興寺文化財研究所長様が

直々にご案内くださり、なかなか拝観できない諸仏様、曼荼羅などにじっくりご説明付きで拝することができ、感激でした。元興寺の始まりは日本最初の本格的仏教伽藍である法興寺（飛鳥寺）が平安遷都にともない、平城に官大寺として新築移転し、寺名を元興寺に改めた七十八年（養老二年）とうかがいました。様々な諸佛を拝観させていただいて、聖徳太子様二歳の時東を向いて合掌されている御像に内蔵された資料のご説明をうけ、先に中宮寺御門跡の南無佛も拝し、法隆寺南無佛も国宝とうかがっており、奈良は聖徳太子様信仰の地であることが感じられました。



元興寺に隆盛をもたらせた智光曼荼羅を間近に拝し、極楽世界のほとけさま群や広大な面積を占める蓮の池が描かれていました。ご住職様の説明で初めて知ったのですが、極楽蓮池に咲く全ての蓮の花の中に、人間の赤ちゃんが手足を思い思いに動かしている姿で描かれていました。極楽には赤ちゃんがいる”というものがありたく、うれしく感じられたことでした。全日佛婦所縁の皆様と、このような特別なセミナーに参加させていただき感謝しております。

（湯浅正江）